

## 佐世保市行財政改革推進会議における主なご意見

### 計画の方向性について

- あるべき佐世保の姿というものを「ビジョン」として示すことが大事であり、頑張れば出来そうなところよりも、少し上を目指す姿勢を打ち出すことが大事である。
- DX(デジタル トランスフォーメーション)とオープンイノベーションの2つがキーワードであり、いかに行政と民間が連携して変革できるかということがポイントとなっている。
- 行革といえば、組織・財政・職員意識の問題というのは出てくることで、その解決のためには、「行政でやるべきこと」と「そうでないこと」をはっきりさせるべきである。
- コロナ禍におけるニューノーマル(新常态)への対応転換は、デジタル化だけにとどまらず、働き方や私生活を含めた行動変容が求められており、その視点が必要である。
- 最新の国勢調査の結果によれば、将来推計値よりも人口減少が進んでおり、将来は更に深刻な状況になるとの認識のもと、計画を策定する必要がある。

### 職員の人材育成について

- 職員の意識を高めることに関しては、金銭面だけでなく、仕事に対するやりがい、チャレンジできる環境を与えるなど様々な手法が必要である。
- 職員には、行政のプロとしてのプライドを持ってほしい。それと同時に市民に対する説明責任があることを自覚することが重要である。
- 組織横断的な取組を進めていくためにもマネジメントができる人材の育成が必要であり、特に、若手のマネジメント人材の育成を考えていく必要がある。

### デジタル化について

- 「行政のデジタル化による業務改革」に関して、休日に関係なくスマートフォンを利用して各種申請を行えるように、いわゆる「バーチャル市役所」を開設するなど、行政サービスのデジタル化を推進する必要がある。
- DX(デジタルトランスフォーメーション)に係る取組は、できあがったものの提供(プロダクトアウト)という発想を感じる。デジタル技術を使う市民がどれくらい満足できるかという視点も大事であり、マーケットイン的な視点も考慮してもらえればと思う。
- 行政のデジタル化等による業務変革に係る目標は「オンライン申請手続数」ではなく、どれくらい利用が進んでいるかを示す「オンライン利用件数(利用率)」などを設定する必要がある。

### 計画の進捗管理について

- 計画を進捗していくPDCA サイクルの中で、C(チェック)が重要である。数値で評価し難い目標の場合には、曖昧な評価になる可能性もあるため、チェック体制については、現段階からその考え方を示した上で進めていく必要がある。